Summer 2018 No. 103 FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY デリー大学 レディー・シュリ・ラム女子カレッジ スマン・シャルマ学長を迎えて 新キャンパス完成

FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

OpenCampus 2018

神部・学科の説明会やキャンパスツアー、個別相談会などを実施予定

教職員や在学生スタッフと直接話をしたり、

キャンパスの雰囲気を肌で感じることのできる良い機会です。







Ridd 女子大学

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1 Tel.092-661-2411(代表) Fax.092-661-2415 http://www.fwu.ac.jp/



デリー大学 レディー・シュリ・ラム女子カレッジ スマン・シャルマ学長を迎えて

2018年4月3日(火)、本学とデリー大学 レディー・シュリ・ラム女子カレッジ(以下LSR)との間で 学術交流協定及び学生交流協定を更新しました。

調印式にはLSRのスマン・シャルマ学長にご出席いただき、式の終了後、

本学梶山学長との記念対談を行いました。

`について語られたことに深い感銘 ||人的にも、 光栄に

と思います。個人的には、シャ を伺いたいと思い ary Culture Program)の入学 C さまざまな行事に出席 (The World of Japanese 日本の文化や哲 最初に、 ものになっ マ学長に心よ 入学生

強 宗い 教 分や文本文 でとれている。 ンつ な が ŋ

ただき誠にあ

大学の学長お

CONTENTS

THE世界大学ランキング

デリー大学 レディー・シュリ・ラム女子カレッジ スマン・シャルマ学長を迎えて

05-06 特集2 新キャンパス完成

07-13 FWU NEWS

07-08 events

- ·福岡女子大学第69回·大学院第26回 入学式
- ·福岡女子大学開学記念式典
- ・新キャンパス竣工記念祝賀会・懇談会

09-10 international

- ・海外緊急時対応シミュレーション訓練
- ·2018年度春学期 WJCプログラムの開講式
- ·2018年度第一回留学説明会
- ·2017年度春季海外短期語学研修報告会
- ·新入留学生研修旅行
- ·春季「English Village」

11 outreach

- ・3大学連携シンポジウム
- ・山中伸弥先生ノーベル賞受賞記念講演会
- ・佐々木俊介作品展「さまざまな暮らし」

12-13 academic life

- ・大学グッズに学生が提案したデザイン採用
- ・宮崎の特産品を使ったレシピコンテスト参加
- ・インド環境研修プログラム参加
- ・オリエンテーション委員の改革
- ·栄養士養成施設協会学生表彰
- ·TSOD(肥満·糖尿病)マウス研究会研究助成の採択

INFORMATION

- 14 · 2018年度 科学研究費助成事業一覧
- ·人事消息





福岡女子大学広報

No.103 Summer 2018

THE世界大学ランキング 日本版2018

において

総合62位、国際性14位に ランクイン

大学ランキングのひとつである「THE世 界大学ランキング 日本版 2018」におい て、福岡女子大学は総合ランキングで 62位、ランキング指標の「国際性」で14 位となりました。

昨年に引き続き国際性で上位となり、本 学の特徴である国際教育が大きく評価 される結果となりました。

62 位

14 位

※「THE世界大学ランキング 日本版」は、「THE世界大学 ランキング」を手がけるイギリスの高等教育専門誌「タ イムズ・ハイヤー・エデュケーション (Times Higher Education【THE】)』がベネッセグループの協力のもと 作成したもので、THEが今後力を入れる国別の大学ラ ンキングとして、日本版はアメリカ版に次いで2ヶ国目。

ことはできませんが、

宗教において

と日本の歴史を比べる

約千年の時を経て、

インドから

日本に仏教が伝わりました。そう

デリー大学 レディー・シュリ・ラム女子カレッジ スマン・シャルマ学長を迎えて

心のバックグラウンドは同じだと

た意味では、人として大切にすべき

います。 梶山 は 思っています。 ンドは日本のことを大変称賛してい 若者に、一生に一度は日本に行くべ ビンドラナ だけではあり きだと語っていました。今でも、 と呼んでい は日本の文明を「人間関係の文明」 いて話題にしていました。タゴー でさまざまな文化的交流があり とインドを結び付けてきたのは仏教 シャルマ わけ日本文化の影響を強く受けて ーナンダにいたっては、 わが国の民族運動の指導者、 インドと日本の指導者のあいだ ・ヴィヴェーカ 国の文化というものは、 経済パー 2人は日本の古代文明につ そうです ましたし、ヴィヴェ ません。植民地時代に タゴー トナーだと思って ーナンダは、と Ŕ ルとスワ ただ日本 インドの

に拠るところが大きいと考えていま の心に根付いたものです。私は、 イエンスの根底にも人の心や心構え 心から発しないものは根付きま 国民 サ

> 観に共感してのことです。 せ たのも、 ヤルマ 貴学との学術交流を希望 貴学の理念や倫理・道徳 ありがとうございます。

理解を深めていきたい さらなる協力連携 C

ので、 化面でも学ぶべきものがたくさんあ を図ります。勉学面だけでなく、 期留学では、デリ て個々に履修プログラムを作成する そ ラ 文学など数多くの学科があります。 徴をご紹介いただけますでしょうか。 を持っている学生も多いと思います ると思いますよ。 ものもあります。 と考えています。 れていますが、 の中には留学生のニーズに合わせ 本言語と文化の学科も設置したい ムもいくつか用意していますが、 女子大学です。留学先として興味 シャルマ学長からLSRの特 LSRはイ LSRは哲学でよく知ら LSRの学生との交流 ヒンディ また、 ンドを代表する名

ル

大学間を行き来するだけではいけな と考えています。 ルがあると思いますが、私はただ 交換留学にもさまざまなスタ やはり、何を学

> ぶかが大切です。 解も深めていきたいですね。 念まで学んでほしいと思っていま だけでなく、その奥にある思想や理 さらなる協力連携でそうした理 技術や道具を学ぶ

が同じ部屋で生活していると聞きま く関心が高いです。 と、留学した学生が語っていました。 受け入れる貴学の姿勢が素晴らしい 少なくなるでしょう。 とを理解でき、相手に対する不安も した。共同生活をすればお互いのこ 合っていると聞いて大変感心しまし さまざまな言語を学生同士が学び には「ランゲージ・カフェ」というシ LSRが用意している留学先の中で ステムがあるようですね。カフェで イデアや方法をオープンな態度で ほかにも学生寮では4人の学生 貴学に留学を希望する学生は多 同感です。 ところで貴学 また、新しい

ラ

教育イ 次代の女性リ ノベ ションに タ を

ヤルマ と心掛けていることがわかりま 福岡にいる学生の皆さんは非常 来日して気付いたのです 良き市民であろ 街中でゴミを 外から来る







交換留学のプログ 大学近辺に滞在 2週間の短 ー文学や英 ર્ફ ア た。

捨てる人はいませ に礼儀正しいですね。 が、 人々にも親切です。

育です。 教えていく。「道具に心を入れる」こ 本学では「心」の教育も大切にして 学ぶためのひとつの「道具」でしか 際性を育んでいます。しかしそれも、 学は全寮制教育によって、 シャルマ学長が言われたように、本 非常に良いことだと思っています とが大切だと考えています。 ありません。「道具」は重要ですが、 。こうした日本の文化を学ぶのは ありがとうございます。先程、 実用的な教育の中でそれも 言い換えれば「感性」の教 学生の国

ただけますでしょうか。 例えば、今まで知らなかった

意味を、

もう少し具体的にご説明い

「道具に心を入れる」という

深い理念や倫理・道徳観、宗教な 育を目指しているということです。 学びたいという気持ちが強くなり、 まり実用的な教育に留まらず、感動 より自分を成長させるエネルギーに を覚えると、それをさらに知りたい ことを知れば人は感動します。感動 留学する学生には、 多様性を育むと イノベーションを起こす教 それが、教育のイノベ 素晴らしい考えですね。 道具としての教育、つ いう意味で 1 ンドの

> シャルマ 献への意識も高いと思います。 げておりますし、学生たちの社会貢 生に平等に教育を提供する方針を掲 はありません。 ポ 活動にも熱心に取り組んでおり、 音楽、舞踊・ダンス、 暮らしています。また、学生も教員も、 が、 社会的階級や宗教もさまざまです しています。 上級生が下級生の指導役としてサ れた成果を上げています。 学生たちは上手く調和をとって するバディ・システムを採用 実は本学の学生の75%以 もちろん、 L S R は、 ー以外の出身です。 絵画など課外 そこでは、 全ての学 めなど 優

梶山 大学在学中に社会を経験できるユ 教員と事務職員が構成するさまざま 本学は学生に大学の運営・経営に関 ニークな取り組みです。 な委員会に学生も参加しています。 わってもらっています。 社会貢献の観点から言えば、 ですから、

ウ 女性リーダーを輩出されていますね。 新 ン・ワリア、現在閣僚を務めている 人が数多くいます。 ナップリヤ・パテルやメ ンサンスー 女性指導者として活躍している ところで、LSRは数多くの はい。 チー氏をはじめ、 LSRの卒業生に 政治指導者も ミャンマー キラ のア

> ディスカッションでは、 した議論も活発に行 学内のディベー 女性問題を軸 っています。

失敗は成功へのステップ失敗を恐れないこと。

ません。 が、 表のようなものなのです。 とが大事。 失敗を成功に変えようと努力するこ のステップだと考えてよいのです。 ほしいですね。成功への近道はあり セ ージをいただけますか。 失敗を受け入れることも覚えて 最後に新入生の皆さんにメッ 失敗しても、 失敗と成功はコインの裏 勉強することは大切です それは成功へ

梶 ばと思っています。 築いていくためのスター いにとって、 とがわかりました。この機会をお互 とよく似た考えを持って シ なってほしいと思っています。今回 社会に役立つ提案ができる人間に ヤルマ学長とお話を 学生に限らず教職員にも、 より優れた女子大学を して、 おられるこ トにできれ 私ども

日本、 念をもってイ に感銘を受けました。その敬意の 特に福岡と福岡女子大学に大 そうですね。 ンドに帰り 私は今回、

ども学んでほしいと思っています

講義棟

収容人数300人の中ホール、収容 人数150人の小ホールがあり、 学生の学びの中心となる施設 です。講義室にはすべてプロ ジェクターを完備しています。



講義棟 外観



本 部 棟

2階建てで、学長室の他、学務部や会議室、 学生相談室などがあります。

本部棟 外観



研究棟・図書館棟 外観



春から夏にかけては緑の芝や色とりどりの花 が咲き、学生たちの憩いの場となっています。

図書館棟

エントランスホールを兼ねる図書館は、自主 的な学習や交流を育む中心的な場所となり、 その空間は森のようなイメージです。また、 屋上庭園もあり人々に憩いの場を提供する とともに、夏季の熱負荷を軽減させること に貢献しています(※2015年度グッドデザ イン賞受賞)。





海外からの留学生と 日本人学生がともに ます(初年次1年間 [留学生は4年間]の 全寮制教育)。



グラウンド

全面人工芝のグラウンドも完成しました。

地域やアジア・世界の女性に開かれた交流地点としての新キャンパスが完成

本学では将来的な展望を視野に入れ、大学の特色と建物のデザインとの調和を図り、

地域やアジア、世界の女性に開かれた交流拠点としての大学のイメージを創り出せるようなキャンパスを整備しました。 新キャンパスでは、地球環境や地域環境に留意し、

利便性の観点からバリアフリー化を行い、あらゆる人が円滑に利用できるようにしています。



校舎の完成とともに、正門も新設しました。メインストリートには、春は桜、冬はイルミネーションが美しく彩りを添えています。



真

旧キャンパス(2009年撮影)

新キャンパス(2018年現在)

年~20

FWU NEWS

events

2018.4.22

福岡女子大学開学記念式典を

開催しました。

4月22日に、開学記念式典・第7回ホームカミングデーを開催しました。 梶山学長は挨拶の中で、「今後は感性の教育など全国で福岡女子大学 しか取り組んでいないこと、すなわち『福岡女子大学ユニーク』により 一層の力を入れ、2023年の創立100周年に教育で一流大学となれる よう邁進していきたい」と決意を述べました。

式典では名誉教授の称号授与式や、優れた社会活動に取り組んだ学生による活動報告などに続き、朝倉市まちづくり新チャレンジ大学・企画委員会代表の篠崎正美氏より「九州北部豪雨被害の実態と復興への課題」と題したご講演をいただきました。

講演では連続講座のテーマに朝倉市の復興を取り上げた「まちづくり 新チャレンジ大学」の代表としての視点に加え、被災当事者としての観点 から被災地の現状と課題についてお話しいただきました。

「地域の女性リーダー」として活躍されている篠崎氏のエネルギッシュな体験談は、学生にとって非常に有用なロールモデルになるとともに、本学の建学の精神である「次代の女性リーダーを育成」の方策を考える上で、非常に示唆に富んだ講演となりました。



○ 日時女子大学師学記念式集・第下回由ームカミングデー







2018.4.22

新キャンパス竣工記念祝賀会・懇談会を 開催しました。

4月22日、午前中の開学記念式典に引き続き、第2部として工事関係者、同窓生ら約200名が出席し、2012年から進めてきた施設整備の完了を祝う「新キャンパス竣工記念祝賀会・懇談会」を開催しました。

来賓の小川洋福岡県知事、樋口明福岡県議会議長からのご祝辞に続き、工事関係者を代表して占部建設株式会社代表取締役社長の占部歓 久様に感謝状を贈呈しました。

梶山学長は挨拶の中で「施設整備は県の全面支援により実現した。これを機に教育の現状を5年・10年と段階的にレベルアップさせていきたい」と謝意と決意を示しました。







events

2018.4.3 福岡女子大学第69回·大学院第26回入学式を 挙行しました。

4月3日に、福岡女子大学第69回・大学院第26回入学式が挙行され、 国際文理学部254名、大学院19名の、合わせて273名が入学しました。

式では、梶山学長が式辞を述べ、来賓の小川洋福岡県知事並びに 樋口明福岡県議会議長から祝辞をいただきました。その後、入学生を 代表して渡邉さとみさん(国際教養学科1年)が入学生宣誓をし、在学生 を代表して小野山心さん(国際教養学科3年)が歓迎の辞を述べました。

式の最後には、デリー大学 レディー・シュリ・ラム女子カレッジの スマン・シャルマ学長よりご祝辞をいただきました。

新入生は、国内外で活躍できる次代の女性リーダーとなるための 新たな生活のスタートを切りました。











international

2017年度 春季海外短期語学研修報告会を

実施しました。

2017年度春季海外語学研修に参加した総勢67名の学生によ る報告会を3月23日と4月12日に実施ました。海外語学研修に参 加する学生は、それぞれ興味のある分野から自主研究のテーマを 設け、データ収集や文献の調査を行います。各研修の自主研究ア ドバイザーによる指導の下、準備を重ね、現地ではアンケートやイ ンタビューなど、現地でしか行えない調査に励みます。帰国後に は、それらを分析し、まとめたものを報告会にて発表します。

当報告会でも、研修参加者からさまざまな研修の話や、興味深い 研究を聞くことができ、それが良い刺激となり、その後のステップ へとつながっているようです。







2018.4.15

「ようこそ福岡女子大学へ」 新入留学生研修旅行を実施しました。

4月に入学した学部留学生と交換留学生を対象として、日帰り の研修旅行を実施しました。午前中は柳川を訪れ、川下りを体験 した後に、昼食は、柳川名物のうなぎのせいろ蒸しに舌鼓を打ち ました。午後は佐賀県の唐津城を訪れ、佐賀県や九州の歴史に ついて学ぶことができました。

前日までの大雨の影響が懸念されましたが、旅行当日は好天 に恵まれ、留学生達にとっても、日本文化を学ぶ貴重な機会と なったようです。また、留学生達の生活支援を行っている日本人 学生(JD-Mates)も旅行に参加しました。彼女達にとっても留学 生と交流できる貴重な時間となりました。





春季「English Village」を実施しました。

5月12日~13日に、1泊2日の英語合宿型プログラム「English Village」を宗像市のグローバルアリーナで実施しました。 「English Village」は、本学学生が海外大学への留学を模擬的 に体験できるよう、年に2回(春・秋)実施しています。合宿中は、 英語による講義を受講することに加え、英語のみを使用して生活 を送ります。

12回目となる今回は、WJC留学生26名および国際文理学部 生34名の合計60名が参加し、授業やゲームなどのアクティビ ティを楽しむなど、留学疑似体験や英語学習の貴重な機会となり ました。また、WJC留学生たちが中心となり、英語で自由に詩を 作り、参加者同十で披露し合うという、学生の詩的想像力を喚起 するワークショップを取り入れ、本学が推進する「感性教育」にも つながる内容となりました。次回は11月に開催する予定です。



international

海外緊急時対応シミュレーション訓練を実施しました。

本学は、学生や教職員が海外で、事件、事故、自然災害、テロなどの危機事象に巻き込まれた場合に備えた危機管理体制を整備して おり、その一層の強化のため、海外緊急時対応シミュレーション訓練を実施しました。

訓練では、海外研修中の学生が乗車したバスが事故に

遭遇し、複数の学生が病院に搬送されたという想定で行 い、ジェイアイ傷害火災保険リスクソリューションセンター のアドバイスを受けながら、対策本部の立ち上げ、現地対 策本部設置、被災学生・家族対応、広報・マスコミ対応など をシミュレーションしました。

梶山学長をはじめとした関係教職員が参加し、緊急事象 発生時にどう動くべきか、また、緊急時に備えて日常から どのような準備をしておくべきかを確認すると同時に、緊急 対応の難しさを実感した貴重な機会でした。訓練は今後も 実施する予定です。



2018年度春学期 WJCプログラムの開講式を 挙行しました。

4月3日に、WJCプログラム (The World of Japanese Contemporary Culture Program) 2018年度春学期の開講式を本学 大学会館にて挙行しました。開講式では、新1年生や本学教職員も同席し、梶山学長および新開副学長による挨拶、WJC留学生による 簡単な自己紹介などが行われました。

今学期は10ヶ国11大学から26名の留学生が参加していま す。本プログラムは、海外の有力協定校から交換留学生を受 け入れ、英語で開講される授業、自主研究、文化体験、地域交 流や寮生活といったさまざまな機会を提供しています。WJC 留学生たちは、現代日本文化と博多伝統文化を学びながら、 合宿型英語プログラムEnglish Villageやなでしこ寮での共 同生活などを通して、日本人学生と交流し、本学の国際化に 貢献します。本学の国際化推進を代表するプログラムであり、 日本や福岡に対する深い理解を持った「親福岡・知福岡 人材」を世界に輩出することが大きな目的の一つです。



2018年度 第一回留学説明会を開催しました。

2018年度第一回留学説明会を4月10日に開催しました。 今回の留学説明会では、主にLooking For Myself Project 120(LMP120)と総称する、複数の短期海外語学研修・ 体験学習を紹介し、続けてEnglish VillageやCASEUF サマープログラムなどの学内留学体験、交換留学、奨学金 などについて説明を行いました。2018年度は、2つの新設の 研修を加えた14の短期海外語学研修・体験学習が開講さ れる予定です。

LMP120は、将来、交換留学などの長期の留学に挑戦す ることを視野に入れた1、2年生の参加も多く、説明会には 200名を超える学生が出席しました。在校生の海外留学へ の関心の高さがうかがえる説明会となりました。



FWU NEWS

academic life

大学グッズに学生が提案したデザインを採用 ■2018.1.16



福岡の伝統工芸品である"博多織"の織り柄を、本学のカラーである深緋(こきひ)色で 表現しました。縞柄の、太い線は親を、細い線は子を表しているといわれています。両端の 「中子持縞」は「親子縞」と呼ばれ、親が子を包み込み守る様子を、中央の「両子持縞」は 「孝行縞」と呼ばれ、子が親を包み込み守る様子を表しているそうです。このような意味か ら、大学で学生が主体的に学ぶ様子と、学生が社会に出て大学で学んだことを活かし て、より良い社会づくりに貢献し活躍する様子を表現しました。このデザインが大学の広 報や伝統文化の紹介につながれば幸いです。



亀甲文様をイメージさせる六角形に本学のカラーである深緋(こきひ)色と至福感を表す ピンクの2色を用いてデザインしました。亀甲文様は亀の甲羅に由来し、亀は長寿の象徴で あることから古くから人々に愛されてきました。2023年に100周年を迎えるという長い 歴史と、高い志と柔軟な発想を持つ女性像を重ねあわせて、この六角形(亀甲)と2色で 表現しました。さらに、右上りに配置した六角形には、これからも発展してほしいという願い を込めています。大学の広報として活用され、多くの人に使っていただきたく思います。



※紙バッグとキャンパスバッグは、入学式・卒業式などの式典やオープンキャンパスならびに100周年記念事業の広報などに活用さ れる予定です。なお、デザイン内の博多織の織り柄は博多織工業組合様より使用の許可をいただいています。

宮崎の特産品を使ったレシピコンテストに参加して ■2017.12.14-2018.3.3



宮崎県福岡事務所主催「宮崎の豚肉と柑橘を使ったレシピコンクール」の スイーツ部門において、私たちが考案した「みやざきのフルーツ香るさっぱり レアチーズケーキ | で準グランプリをいただきました。

3月には、博多阪急にて入賞者による実演販売イベントにクラスの仲間と 出店し、用意した250食を一番に完売することができました。

取組み始めると大変なことも多く、宮崎の特産品のきんかんと日向夏の甘さ や食感を十分に活かすための生地の配合や混ぜ方といったレシピから、当日の 販売の段取りや人員配置を決めるなど、消費者の目に直接見えないさまざまな 側面を学ぶことができました。主催者の皆様、博多阪急の食品部門の皆様、 一緒に取組んだ友人に感謝します。 食・健康学科 4年 澤田 真美さん

インド環境研修プログラムに参加して ■ 2018.3.13-3.21

環境科学科2年生(当時)4人が本研修に参加しました。この研修で は、都市部のデリー・アグラやオディッサ州のチリカ湖やベンガル湾 沿岸を訪問し、地域環境問題の実態を学びました。

都市部では廃棄物で汚染された河川を目の当たりにし、衝撃を受け たのが今でも印象に残っています。オディッサ州では、現地の環境 NGOの方々と行動を共にし、自然観察や地域コミュニティ、小学校な どを訪問しました。地域コミュニティでは、各々設定したテーマを基に インタビュー調査を行いました。小学校では、環境ワークショップや植 林などの環境教育が実施されており、子どもたちが環境に対して高い 関心を持っていることを実感しました。今回の研修で学んだことを、今 後に活かしていきたいです。 環境科学科 3年 花田 唯さん



outreach

3大学連携シンポジウム「超高齢・長寿社会を 支える地域力について考える |を開催しました。

3月10日、なみきスクエア大ホールにて、九州産業大学、福岡工業大学と の取り組みで、東部地域大学連携シンポジウムを開催しました。

本学は「少子高齢社会における1人ひとりの活躍と地域力」に関連づけ たテーマで調査・研究発表を行いました。報告の一部は、秋山真莉奈さん と原田彩衣さん(共に国際教養学科4年)によるもので、社会人学び直しプ ログラムの方々による研究協力も得られ、これまでに培った学術的な知識 や技能を発揮する場になりました。パネルディスカッションでは、現役小児 科医で社会人大学院生として研究に専念される伊藤瑞子さんをお迎えし、 子育てと地域という結びつけは翌日の西日本新聞でも紹介されました。

本事業を通じて、学部ゼミ生、大学院生、社会人学び直しプログラム受講生 修了生の方々との相互交流が形成され、本学ならではの大きな特色といえます。



山中伸弥先生ノーベル賞受賞記念講演会 「iPS細胞がひらく新しい医学 |を開催しました。

3月5日に、アクロス福岡イベントホールにおいて、山中伸弥先生 ノーベ ル賞受賞記念講演会「iPS細胞がひらく新しい医学」を本学と九州大学の 主催で開催しました。本講演会は、ノーベル賞受賞者の研究に関する業績 のみならず、探究心や向上心を受賞者ご自身に語っていただき、若者の 将来への情熱と人間力に結びつけてもらうことを目的に、2011年度より 不定期に開催しているもので、今年度で3回目の開催となります。

この日は定員を上回る多数のご応募をいただき、高校生・大学生を中心 に、900名超の方が参加されました。山中先生は研究者を志した経緯やア メリカでの研究生活、帰国後の苦労など経験談をもとに、長期的なビジョ ンを持ち、努力を続けることの大切さを話されました。



講演後の質疑応答では、高校生の皆さんから多数の質問を受け、盛況のうちに講演会を終了しました。

佐々木俊介作品展「さまざまな暮らし」を開催しました。

本学名誉教授である佐々木俊介氏作品展を、4月20日から5月31日まで、 福岡女子大学美術館で開催しました。油彩画、水彩画17点と、佐々木先生 が本学の教員時代に指導した学生の演習作品を展示しました。初日の4月 20日には、佐々木先生と安永幸一福岡アジア美術館元館長によるオーフ ニングトークが行われ、多くの観客で賑わいました。

佐々木先生は学生時代から画家バルテュスに影響を受け、都市生活者 の日常やそこに潜む自己疎外、社会の中の個などの心象風景を描いていま す。また、理不尽な社会を批判しても私たちは楽観的でハッピーに生きて いるのではないかと問いかける『美味し国』や机の上を描いた『机上の風 景』、都市生活の中に人工的なもの架空のものを組み合わせた『村の入口 -1』など、多様な画風でありながらも「都市生活」という一貫したテーマを 持って作品を描いておられます。

開学記念式典や「福岡ミュージアムウィーク2018」でも多くの方が訪 れ、鑑賞されていました。





FWU NEWS

2018年度 科学研究費助成事業 一覧 (五+音順)

今年度、本学教員が研究代表者として行う科研費助成事業についてお知らせします。

| | 研究種目 | 所属 | 職 | 教 員 氏 名 | 研 究 テーマ |
|---------|----------|--------|-------|---------|--|
| | | 食·健康学科 | 准 教 授 | 石川 洋哉 | におい分析に基づく抗酸化物の相乗効果解析と新規食品酸化抑制技術への展開 |
| | | 環境科学科 | 准 教 授 | 猪股 伸幸 | 同所的に生息する湖沼性淡水魚の体色の類似化と色覚の関連性に関する研究 |
| | · | 国際教養学科 | 教 授 | 大久保 順子 | 国語教科書の日本近世作品教材の研究一解釈受容と教育の展開の分析 |
| | | 国際教養学科 | 教 授 | 岡 克彦 | 性的マイノリティの人権救済をめぐる韓国の「積極司法」の構造的特質に関する研究 |
| | | 食·健康学科 | 准 教 授 | 小林 弘司 | 細菌由来の揮発性化合物を指標とする食品危害細菌検出法の開発 |
| | | 国際教養学科 | 教 授 | 坂本 浩一 | 福岡に残る洋学資料コレクション筑紫文庫資料を主対象とした近代対訳辞書の基盤研究 |
| | | 国際教養学科 | 教 授 | 佐藤 秀樹 | ノンポイントソース汚染に関する環境政策への経済理論的アプローチ |
| | | 国際教養学科 | 准 教 授 | 徐 阿貴 | 韓国における結婚移住女性の政治的主体化―トランスナショナルな組織活動を中心に |
| | | 環境科学科 | 教 授 | 庄山 茂子 | 循環型社会と男女共同参画社会実現に向けた職場における制服のあり方について |
| | | 環境科学科 | 教 授 | 瀧下 清貴 | 干潟生態系における真核微生物の多様性と生態学的役割の解明 |
| | 基盤研究C | 国際文理学部 | 教 授 | 長野 真弓 | 児童・生徒の心身の不調および多日数欠席の抑制に関わる体力・身体活動量の縦断的検討 |
| | | 国際教養学科 | 准 教 授 | 中村 大輔 | 社会的厚生関数を用いた経済主体の立地意思決定と持続可能な地域経済に関する分析 |
| | | 食·健康学科 | 教 授 | 中 村 強 | 腸内細菌叢と非アルコール性脂肪性肝炎の病態進展との関連に関する基礎的検討 |
| 基金 | | 国際文理学部 | 教 授 | 野依 智子 | ホームレス状態にある若年女性の生活・就労・社会的自立支援のためのシステム構築研究 |
| | | 国際教養学科 | 准 教 授 | 橋本 直幸 | 話題別多読を用いた付随的語彙学習の体系化に関する研究 |
| | | 食·健康学科 | 教 授 | 濱 田 俊 | 刺胞動物シナプスの形態と分子構築からシナプスの進化を探る |
| | | 環境科学科 | 助教 | 福田 裕美 | 日常生活における夜間の光がエネルギー消費へ及ぼす影響の把握 |
| | | 環境科学科 | 准 教 授 | 松尾 亮太 | 非眼性光感知に基づく負の光走性行動の研究 |
| | | 国際文理学部 | 准 教 授 | 湯田 ミノリ | フィンランドにおけるSTEM教育としての地理教育のカリキュラムと教育方法の研究 |
| | | 国際教養学科 | 准 教 授 | 吉 田 信 | 植民地における旅券制度の構築と人の移動-蘭印・英領マラヤ・台湾をめぐって |
| | 国際共同研究強化 | 環境科学科 | 准 教 授 | 嶋田 大作 | 先進国型コモンズの環境保全機能を維持・再生するための分析フレームワークの構築 |
| | 若手研究B | 環境科学科 | 准 教 授 | 岩﨑 慎平 | 漁業者主導による森林コモンズの可能性:漁民の森づくりの活動実態に関する比較研究 |
| | | 国際教養学科 | 准 教 授 | 坂 口 周 | 日本近現代文学の視覚文化論的研究 |
| | | 国際文理学部 | 講師 | 都地 沙央里 | 異端書『愛のイメージ』(The Ymage of Love) の出版史と編集 |
| | | 食·健康学科 | 助手 | 西原 百合枝 | エスプーマ調理器を使用した泡状ゲルのテクスチャー特性の解明と高齢者用食品への応用 |
| | | 食·健康学科 | 助 教 | 南 育子 | 食品への照射技術の新たな応用の可能性の検討 |
| | | 国際教養学科 | 准 教 授 | 山根 健至 | 治安部門ガバナンスにおける市民社会の役割に関する研究:フィリピンの事例を中心に |
| 4± p± A | 基盤研究B | 環境科学科 | 准 教 授 | 小崎 智照 | メラトニン分泌抑制を軽減するLED照明の点滅特性 |
| 補助金 | | 国際教養学科 | 特任教授 | 小谷 耕二 | 「ホームランド」の政治学-アメリカ文学における帰属と越境の力学に関する研究 |

人事消息

役職者 任期は2019年3月31日まで

| 常務理事兼事務局長 | 梶 | 原 | 公 | 徳 |
|-------------------------------------|---|---|---|---|
| 理事兼副学長兼入試・広報・キャリア支援センター長兼人間環境科学研究科長 | 吉 | 村 | 利 | 夫 |
| 副学長兼教育企画会議議長 | 庄 | 山 | 茂 | 子 |
| 学長補佐兼教育・学習支援センター長 | 渡 | 邉 | | 俊 |

新任(教員)

| 国際教養学科 | 講師 | 櫻 木 理 江 | ■ 経営学 |
|--------|----|----------------------|-----------|
| 国際教養学科 | 講師 | 藤 原 翔 太 | ■ 近代フランス史 |
| 環境科学科 | 講師 | 若 竹 雅 宏 | ■建築設計学 |
| 共通教育機構 | 講師 | Paul Lawrence TURNER | ■ AEP |
| 共通教育機構 | 講師 | Dragana LAZIC | ■ AEP |
| 食・健康学科 | 助手 | 北古賀 優紀 | ■栄養学 |

昇仟(教員)

| 71 III (3/2/2/) | | | | | | |
|-----------------|-----|---|---|---|---|----------|
| 国際教養学科 | 准教授 | 坂 | П | 周 | | ■日本近現代文学 |
| 国際教養学科 | 准教授 | 山 | 根 | 健 | 至 | ■ 比較政治学 |

| 学長補佐 | 深町 | 朋子 |
|--------------------|-----|-----|
| 学長特別補佐兼戦略企画センター長代行 | 太 田 | 稔 |
| エグゼクティブ・アドバイザー | 松 田 | 美 幸 |

新任(職員)

| 経営管理部 | 財務管理班長 | 入 江 | 啓 之 |
|-------|-----------|------|-----|
| 経営管理部 | 経営総務班 | 龍 | 朱 美 |
| 経営管理部 | 経営総務班 | 髙橋 | 史 |
| 学 務 部 | 教務企画·入試班長 | 城小 | 百合 |
| 学 務 部 | 教務企画・入試班 | 田中 身 | 表郎 |
| 学 務 部 | 教務企画·入試班 | 足 柄 | 有 紀 |
| 学 務 部 | 学生支援班 | 安 部 | 一 俊 |
| 学 務 部 | 学生支援班 | 松 﨑 | 由美 |
| 学 務 部 | 学生支援班 | 邊 見 | 麻 紀 |
| 学 務 部 | 地域連携班 | 今 村 | 育代 |

academic life

オリエンテーション委員の改革の一歩

オリエンテーション委員とは4月に新入生へ向けて行われるオリエンテーションを運営する 委員会です。新入生がより良い大学生活を送れるように私たち先輩からアドバイスを送ることが 目的なのですが…私を含めた委員はとりあえず今まで通り進めようとしか思っていませんでした。

そんな私たちの意識を変えたのは「学生が主体の大学に変えていきたい」という大学側の 強い思いでした。何の目的でここにいるのかもわからず周りに流されながら生活している学生 は多いのではないかと思います。正直私も委員会に入る目的も考えず仕事が少なそうという 理由で委員会を選んでいました。

しかし委員会は、私たちが積極的に参加し在り方を変えていくことで、主体性・社会性を 身につけられる絶好の機会になりうるのだと気づき、もったいないことをしていたと思いました。 大学が自分を磨ける場であるために私たち自身もそういう大学づくりをしていこうと思います。 そのための一歩として、4月のオリエンテーションではいくつかの試みを仕掛け、現在は年間を 通じて来年度のオリエンテーションをより良くするための活動を始めています。



環境科学科 3年 後藤 百那さん

栄養士養成施設協会学生表彰について ■2018.3.22



今回、全国栄養士養成施設協会の学生表彰を受ける ことができ、大変光栄に思います。食・健康学科で過ごし た4年間は、日々の講義や実験に加えて、多くの課題も あったため、大変な時もありました。特に3年生の時の栄養 教諭教育実習、保健所実習、病院実習の3つの臨地実習 では、慣れない場所で学ぶことに不安も感じていました。 しかし、先生方や友達、家族などに支えられていたからこそ、 数々の大変なことも乗り越えることができたと思います。

福岡女子大学ではさまざまな出会いや学びがあり、かけ がえのない時間を過ごせたことに感謝の気持ちでいっぱい です。今後は大学で学んだことを活かし、管理栄養士とし ての責任をしっかり持って社会に貢献していきたいです。

食・健康学科 4年 齊藤 詩織さん

TSOD(肥満・糖尿病)マウス研究会研究助成の採択 ■2018.3.16

3月16日、つくばで開催されたTSODマウス研究会にて、TSODマウスの代謝 障害に関する研究結果を報告いたしました。加えて、本年度1年間にわたる研究 計画を提出し、その結果、学生部門における研究助成につき採択されることに なりました。TSODマウスは肥満、2型糖尿病といった生活習慣病を自然発症す る病態モデルマウスです。飽食や運動不足も加わり、生活習慣病を起因とする 肝臓疾患でNASH(お酒を飲まなくても肝炎になる疾患)という疾患が多発して おり、発症の予防や改善が必要とされています。

運動が肝臓疾患や血液中の成分に及ぼす影響を検討し、糖質代謝などに関 わる遺伝子や代謝産物についても解析を行う予定にしています。これまでの研 究結果を踏まえた計画内容を評価され、研究助成をいただくことができました。 今後とも、これを励みに精一杯研究活動に取り組んでいきたいと思います。

人間環境科学研究科 博士前期課程 2年 髙橋 実旺さん